

<福島県教育長賞>

「私達の生活にある税金について」

喜多方市立塩川中学校 3年 石戸 唯華

私はいままで、税金が好きではありませんでした。いろんなものに税金がかかっていて私は必要ないと思っていました。でも前授業で税金のことについて詳しく勉強をして、私の今の考えでは間違っているなど分かりました。なぜなら、私たちの払っている税金がすごく広い範囲で生活に生かされていることを知ったからです。

税金は医療費負担や年金、生活保護費などにつかわれていて、病気をした人や老人など困っている人のために税金がつかわれているのだと分かりました。税金はほかにも道路を作ったり公園を作ったりといろいろなことに使われていることが分かったけど、わたしが目をとめたのは「義務教育費」という項目の内容でした。わたしたちが毎日勉強している学校の校舎や、授業を受けるのに必要な教科書などは、すべてが税金によってまかなわれていることでした。私は今まで、税金を身近に感じたことはなかったけど、こういうところで私たちを支えてくれているということには驚きました。今まで、学校がどうやって建てられているかなどということに注意を向けたことはないし、それでもなんとなくそう聞いてはいたけれど、わたしたちにとってはこれが当たり前の感覚でした。友達と話したり、授業を受けたりする校舎があることも、それに使う教科書も、電気や水道が使えるのにも別に何も疑問はありませんでした。でもその「当たり前の毎日」を作っているのは私たちが払う「税金」だということに気づくことができました。

毎日の生活の暮らしの中ではなかなか気がつかないけれど、わたしたちの暮らしを支えてくれているということが分かりました。それは、わたしたちが支払う税金のおかげです。また、それは多くの人の手助けにもなることが分かります。そして、自分も気づかないうちにいろんな人に支えられています。それがお互いのに助け合うこと。それが「税金」だと分かりました。こうして分かった今、いつも見るレシートの「税」

の文字が、わたしたちにはもうもったいない物には見えませんでした。